

「母校創立 110 年史の構想」について(私のメモ)

## 1 まえがき

瓊林会は「母校創立 110 周年記念事業」の一環として「母校創立 110 年史」の編纂を意図されている。私は「瓊林会の本」を通し、事務局に一方ならぬお世話になっており、本件も私なりの期待と関心を持つ。然し、これを正面から語るだけの資料や見識を持ち合わせていない。そこで「母校史の本」を閲覧して、感じた本件に対する想いをメモ風に記してみた。「母校 110 年史」編纂の参考になれば幸いである。

## 2 母校史とは何か、誰が何のために書くのか。

(1) 「母校史」とは長崎高商(経専)・長崎大学経済学部に関する学校(組織・施設・教科目・教官・学生・学友会)・同窓会の事歴と活動記録である。「記録」には文字・写真・資料・電子媒体による全情報を含み、その手段も、文筆・写真のみならず、電子媒体による情報入力や、関係資料の蒐集・保管、アーカイブ活動の全てが含まれる。

(2) 「母校史」を「瓊林会の本」から選択すると、次の 9 冊(別添付表・参照)がある。

- ① 「玄鶴—長崎高商創立二十周年記念号」長崎高商同窓会編・(T14/5 刊) ◎
- ② 「長崎高等商業学校三十年史」—長崎高等商業学校編・(S10/10 刊) ◎
- ③ 「西陵 50」—長崎高商創立 50 周年記念アルバム—瓊林会(中山軍次)編・(S30/10 刊) ○
- ④ 「憶い出の母校-65 周年記念」アルバム—瓊林会編・(S45/7 刊) ○
- ⑤ 「暁星淡く瞬きて—長崎高商七拾年史」瓊林会編・(S50/9 刊) ◎
- ⑥ 「長崎高商物語」読売新聞・長崎支局著 (S60/2 刊) △
- ⑦ 「90 年 1995」—長崎大学創立 90 周年アルバム—瓊林会編・(H7/10 刊) △
- ⑧ 「長崎大学 50 年史・部局史・経済学部」同大学編・(H11/3 刊) ◇
- ⑨ 「脈打つ瓊林群像—長崎大学経済学部 100 周年」—長崎新聞編集局著・(H17/10 刊) △

(3) 母校史の著者・編纂者は、上掲の②⑧は「学校当局」、①③④⑤⑦は「同窓会・瓊林会」、⑥⑨は「地元新聞社」である。但し、(長崎高商と学部)を連関させての母校史編纂は、今後、学校側には期待できないので、以降は「瓊林会」(「瓊林友の会」「学友 OB 会」など)、「マスメディア」などが主体となる。

(4) 「何のために書くのか」は、其の俛、母校史の「評価」に連なる。上記 9 冊の評価を書名の末尾に(◎○△)で記した。私の評価基準は「後世の人々にも手に取って眺め読んで欲しい」本である。優れた本は、無言のうちに人々の心を捉え、読者は「何のために書かれたか」を知る。これが「編集理念」であろう。(別添付表)には、私の言葉で端的な「編集理念」を記した。

◎印は(母校に対する信頼と、歴史を記述する喜びに溢れ、学校・教師・学生・同窓会への目配りも広く、同窓会員の参加意識も高い。○は学舎と学生生活を回顧するアルバムで文筆による叙述を避けた。ところが 1980(S60)年以降の母校史は、編集理念が「OB 列伝・会長・経済人称揚」形に大きく変化していくので、△印を付した。この背景に⑦⑧に垣間見るような「母校の苦難」(総合経済学科コース制・教官不足・大学院設置滞滞)、母校の社会的地盤低下があり、書物ではこれを直截に顕示できぬ事情もあったようだ。以上を配慮すれば、今回の「母校 110 年史」も、会幹部の意向に沿う「[掲載内容・形式・蒐集資料・所要資金・所要期日]」などの輪郭を先決された後、編纂に臨まれるのが賢明ではなかろうか。

## 3 「母校 110 年史」編纂についての具体的な提案。

(1) 先に結論を言う。「母校 110 年史」は「明日を拓く」+α 形の(Visual-Book)形式で編纂されたがよい。会幹部の意向を忖度すれば、今回も(長崎高商と学部)を連関させた「母校 110 年史」を作り、会員諸兄に改めて「自己存立意識=Identity」の強化をお願いし、募金活動へ繋げる所存であろう。

然し会員各位は「110年史」発刊の契機が「公益法人活動資金補填」「110周年記念式典」の為の募金にあることは「瓊林124号」会長挨拶でつとに承知である。それ故、母校史の編集理念・掲載内容も旧来の「伝統重視・経営人礼賛」形を脱し、広報誌「明日を拓く」が掲げる「世代をつなぐ同窓の絆」全会員協賛形に、明確に転換する必要がある。

(2) 今回何故(Visual・Book)形式を推奨するのか。今仮に本格的な「母校史」を企図しても、現状では余りに周囲条件が未成熟である。(a)組織・責任者の理念調整・(b)資料蒐集/編纂者能力・(c)会員の期待(d)必要資金・(e)所要期間など、何れの面からも⑤「70年史」の如き文筆掲載型の成果は無理である。さて(Visual・Book)「明日を拓く」が掲げる CatchCopy「世代をつなぐ同窓の絆」は至言である。但し、現状では内実が伴っていない。「明日を拓く」の掲載内容は、依然として「母校伝統・経営経済人礼賛」形の域を離脱していないからである。以下では、私が考える「+α型」の内容構成を具体的に示す。

- (3) 「明日を拓く」+α型(Visual・Book)の掲載内容 (A4判・横配置・120P 全頁カラー、括弧は掲載頁数)
- ① 「110年史によせて」・「伝統・経営人礼賛」形でなく「学縁の絆を重視する生活者視点」で (2p)
  - ② 「母校+瓊林会の歴史」—原則採用・但し編纂理念に従い部分補正(2p)・
  - ③ 「年代毎の卒業生数の推移・社会トピックス・同窓会名一同上—(2p)
  - ④ 「母校史年表—組織・教科課程・教師・学生・施設・学友・同窓会・短大院等の事歴を文章で (5p)
  - ⑤ 「思い出の施設」(新旧校舎・片淵構内諸施設・瓊林会館・女子寮など) (4p)
  - ⑦-1「思い出の母校—卒業後 60・80年目高商・経専世代のアルバム・場所・家族・同僚・趣味・人生」(4p)
  - ⑦-2「思い出の母校—卒業後 50/40/30/20/10年目のアルバム・場所・職務・家族・同僚・事件」(20p)
  - ⑧ 国内の政経・福祉・教育・文化世界で活躍される瓊林会同窓生の事歴(20p) —同期会推薦—
  - ⑨ 世界各地の政経・福祉・教育・文化世界で活躍される瓊林会同窓生の事歴(5p)—同期会推薦—
  - ⑩ 瓊翠会活動・女性同窓生視点からの社会福祉活動・生活を語る写真と説明(4p) —女性会推薦—
  - ⑪ 「思い出の教授探訪記—近況・教科書・著作物を追って、写真と説明(6p) —ゼミ同門会推薦—
  - ⑫ 瓊林会・友の会・校友会・ゼミ同門会など OB 諸活動の思い出写真と説明(10p) —各会推薦—
  - ⑬ 瓊林会館・分館図書館・武藤文庫・東南ア書庫が所蔵する歴史的資料。写真と説明文(5p)
  - ⑭ 直近 35 年(1980~2016 年)の母校を辿る(教官流出・総合経済学コース・院設置遅滞など) (4p)
  - ⑮ 就活・実学教育の展開と成果・写真と説明文(4p)—藤田教授へ依頼—
  - ⑯ 「母校 110 年史」に寄せて、母校関連・著名氏からの Photo+ Message(10p)
  - ⑰ 地縁・血縁・師弟縁・同族縁・母校が取り持った深い(えにし) 写真と説明文(4p) —同期会推薦—
  - ⑱ 同窓会員よりの募集原稿=[私が秘蔵する母校の一枚(Photo+ Essay) (4p)
  - ⑲ 郷土長崎の今昔・観光新旧名所を巡る—観光・産業革命世界遺産など写真と説明文(4p)
  - ⑳ 編集後記(Photo+ Message 形式の) (1p)

- (4) 写真・資料蒐集・編纂の具体的な手続き、留意点、予算など
- a 編集委員長は瓊林会事務局長とする。実行委員は事務局長が幅広く、全会員に依頼する。
  - b 学部・瓊林会など組織の長を崇める権威主義的、募金謝礼的な編纂は何としても避けたい。
  - c 本件の成否は+α部分(⑤-⑱項)に同窓会員の力(=同意)を借りる方策如何に掛っている。
  - d 上記(⑤-⑱項)に関する写真と説明文(葉書 1 枚 400 字)の提供を、瓊林会長は全会員、特に理事・支部長・代議員・学友会・ゼミ同窓会等の委員に要請し、事務局長より正式書面にて依頼する。
  - e その際、提出原稿の取捨選択は全て事務局長に一任する。本作業は実費も含め原則無償とする。
  - f ⑦⑧⑨項は同期会幹事、⑩⑪⑫項は各会幹事に、写真+説明文提供・編集原案の作成を依頼する。
  - g ⑭項は今回の母校史に何とか掲載しておきたい重点項目。⑧の執筆者都野元学部長へ依頼する。
  - h 総予算は、(Visual・Book)「明日を拓く」(瓊林会編)の 3・5 倍額を当面の目途とする。

#### 4 別添付表

「長崎高商・経済学部・母校史一覧表」(「玄鶴」から「脈打つ瓊林群像まで」)

以上

別添付表

長崎高商・経済学部・母校史一覧表(「玄鶴」から「脈打つ瓊林群像」まで)

(2014/7/31)

番号	資料表題	著者・編纂者	種類	頁数	刊行年	収載内容のポイント	本資料の特質と評価	編集理念形	評価
①	「玄鶴—長崎高商創立二十周年記念号」	長崎高商・同窓会編	雑誌 (分館)	P144	T14/5	同窓会(年次別発達史)・母校(施設・職員・就職先)・学生生活(学友会・趣味・住居)など 巻末には「普通選挙法」全文を掲げる	20回までの校長・教官・同窓生多数が寄稿され、開校草創期の歓喜・気迫・期待が誌面に 滲み出る。開校草創時の統計資料も貴重	母校草創	◎
②	「長崎高等商業学校三十年史」	長崎高等商業学校編	書籍 (2023)	P460	S10/10	明治・大正・昭和時代に区分し「概観・規定・施設・職員」を記述、昭和に「現況」を置く。 学友会・同窓会・学校年表等も網羅する	学校編纂による官製母校史の模範を示す。 規定・組織・学科・施設などを網羅し、学友会・同窓会への配慮も、母校の将来への想いも	母校興隆	◎
③	「西陵50」—創立50周年アルバム	社団法人・瓊林会編 (19回・中山軍次)	写真集	P40	S30/10	明治大正・昭和時代の(校舎・教官・学生生活)(郷土観光)写真を掲載、巻末に母校年表(M38-S30)を掲げる。写真説明もよい。	小冊子ながら100枚を超える写真(モノクロ)の 配列も巧みで、母校と青春を懐古する確かな アルバムとなっている。B5判縦配置。	母校青春	○
④	「憶い出の母校-65周年記念」	社団法人・瓊林会編	写真集 (860)	P20	S45/7	拱橋・旧校舎・研究館・教官・武藤文庫・石碑 等の施設に、歴代校長・学生生活の写真を 並べ、竣工した新校舎の姿も加える	50周年アルバムに倣った編集だが、B5判横 配置で、写真(カラー)の写真説明はなくて 表題のみ。	施設懐古	○
⑤	「暁星淡く瞬きて—長崎高商七拾年史」	社団法人・瓊林会編	書籍 (105)	P637	S50/9	創立・高商時代・学部と短大・教官と学友会 瓊林会の5部構成で、豊富な資料を饅めた 百科辞書的な大著である。	数十名の高商同窓生が執筆した巨大母校史 最後の高商世代による渾身の編集。理念は 吾等自身の為の確かな母校礼賛。	母校礼賛	◎
⑥	「長崎高商物語」	読売新聞・長崎支局	書籍 (773)	P395	S60/3	長崎高商時代の時々の挿話にまじえて、OB 数十名の個人歴を各時代の物語風に紹 介。人物写真も豊富に挿入されている。	母校が学部へ転換して34年、長崎高商の記 憶が世間に埋没しない前二人を語っておく プロの文章が滑らかで市民にも読み易い、	高商OB列伝	△
⑦	「90年1995」	社団法人・瓊林会編	写真集 (2050)	P68	H7/10	年表「最近20年の歩み」は大学院設置を巡 って、1977年以降20年の苦難を語る 行間に滲み出る当時の記録は大変貴重	会長を礼賛し募金協賛各社への謝礼を表す 90周年記念、大学院設置祝賀式向けパンフ 巻末に45頁にわたる賛助広告	会長礼賛	△
⑧	「長崎大学50年史・部局史・経済学部」	50年史刊行委員会編 (都野尚典・学部長)	書籍 (76)	P40 (p238- p337)	H11/3	文教地区移転問題・貿易科をファイナンスへ 総合経済学科コース制・大学院設置構想 などを、事務的に伶俐に叙述する	大学本部から見た母校の相対的地位の低 落が顕著。「経済学部の将来展望」は不透明	母校苦難	◇
⑨	「脈打つ瓊林群像— 長崎大学経済学部100周年」	長崎新聞・編集局編	書籍 (106)	P233	H17/10	県内外・九州の経済人(82名)、行政政治・ 教育文化人など(22名)のOB個人の列伝。 長崎新聞(2003-05)連載記事の単行本化	創立100周年時に100余名の瓊林群像を紹介 (長崎高商～学部)の伝統と人脈を誇示	経済人礼賛	△

注記  
 (A) 本表は私の選択により、瓊林会館・学部図書館・東南ア研書庫は所蔵する「母校史」に関する資料群を、発刊時期順に一覧表示したものである。  
 (B) 本表右端の「評価」欄は、後世の人々に手に取って(読み眺めて)欲しい資料を判定、評価したものである。その意味で特定人の称揚からは遠い。ご容赦を乞う。  
 (C) 本表を通覧した印象では、高商世代の草創・興隆期の自信溢れる「母校愛」が其の後の「母校礼賛・母校懐古」を経て、今では「伝統誇示・経済人礼讃」に変化してきた感が強い。  
 (D) (学卒新世代)の公益活動を含む、母校史のためには、「伝統誇示・経済人礼讃」形を描いて、自らのIdentityを確立する事が先決であり、新しいKEYWORD「明日を拓く」の実践が必要であろう。  
 (E) 各資料の書影は裏面を参照のこと。本表「種類」欄の(数値)は私製資料「瓊林会の本」(Excel-DataBase)の番号である。